

きたほら 北原2遺跡

遺跡番号	平成11年度登録
調査回数	第1次
所在地	村山市大字本飯田字北原
北緯・東経	北緯38度32分18秒・東経140度23分15秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起回事業	東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設事業
調査面積	700㎡
現地調査	平成22年5月19日～10月29日
調査担当者	佐竹弘嗣（調現場責任者）・渡部裕司
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代
遺構	竪穴建物跡・柱穴・土坑
遺物	縄文土器・石器（文化財認定箱数：1箱）



図1 遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

北原2遺跡は、村山市本飯田地区、JR 袖崎駅から南南西約1km、標高約90mに位置する。西側に最上川の支流である沢の目川が流れ、北東に向かってなだらかな丘陵地となり、南端部は東・西・南側を山麓斜面に囲まれている（図1）。これまで畑地として利用されていた。

今年度、国土交通省山形河川国道事務所からの委託を受け、事業区内にかかる7,000㎡を対象面積として発掘調査を実施した。本調査に先駆けて、トレンチ調査を行った。幅1.5m、長さ10～45mのトレンチ17本と2m

四方の坪掘り22箇所合計700㎡を調査面積として設定し掘削を行った。その後、人力による面削り作業で遺構検出作業及び遺構精査を実施し、遺構・遺物の有無を確認した。

遺構と遺物

遺構は全体的に希薄である。遺跡範囲の北部から中央部にかけては、淡い黒褐色の土色変化が多数見られた。しかしこれらを遺構と断定するのは難しい。ただ南端部西側トレンチからは竪穴建物跡の可能性が考えられる大型遺構や土坑が検出されている。遺物は南端部西側トレンチの表土下約20～40cmに遺物包含層が認められ、縄文時代の土器片が多数出土した。縄文土器は約3,000年から2,500年前の縄文時代晩期の土器と見られる。

まとめ

今年度のトレンチ調査により、縄文時代晩期の土器片が多数出土し、竪穴建物跡の存在が推定される遺構も検出された。この結果、来年度2次調査として、南端部西側の約1,050㎡を拡張区として発掘調査を実施することになった。周辺には、縄文時代早期から晩期の土器が出土した赤石遺跡を始め、縄文時代の遺跡が連続して分布している。2次調査により、本遺跡と他遺跡との関連等、当時の集落の様相の解明が期待される。